

ノミ

出典：Wikipedia

ノミ（蚤）とは、節足動物門昆虫綱ノミ目（隠翅目）に属する昆虫の総称。シラミとともに、代表的な外部寄生昆虫に数えられる。

科	スナノミ科
	ヒトノミ科
	ケナガノミ科
	ミナミノミ科
	ケブカノミ科
	コウモリノミ科
	ホソノミ科
	ナガノミ科



ヒトノミ（ネコノミ？（Oda））

概要

体長は1mm以下～9mm程度の小さな虫で、日本全土はもとより世界各地に分布する。世界で16科約200属約1,800種が記載されており、その全ての成虫が哺乳類など恒温動物の体表に棲み、吸血して生活する。ヒトにも寄生するノミとしてヒトノミがいるが、日本では衛生状態の向上によって滅多に見られなくなった。犬や猫などヒト以外の哺乳類や鳥類などには、ネコノミやイヌノミなど多くのノミが寄生しており、これらの主にヒト以外に寄生する種も、ヒトに寄生して吸血することがある。

系統的にはシリアゲムシ目に近縁とされ、DNAを用いた系統解析からはユキシリアゲムシ科と最も近縁で、ノミ目とユキシリアゲムシ科を合わせた群に南半球固有のシリアゲムシ類であるNannochoristidae科を加えた系統が、他のシリアゲムシ目諸科の姉妹群になるとの研究がある。これによると、ノミ目は従来のシリアゲムシ目のうち、寄生生活に特化した一群であり、ノミ類のみを独立の目として扱うのは不都合ということになる。また、ノミ目自体は単系統の一群と見なされるが、旧来の諸科は人為分類的な多系統群や側系統群であり、見直しが必要とされる。

形態

成虫は、左右に扁平な体型で、宿主の体毛の中を動きやすいように流線型の体をしている。これは同じ外部寄生性のシラミやハジラミが背腹に扁平なのと好対照をなす。体長は1mm～9mmで、体色は褐色または黒褐色で、かたい体表に感覚毛をもつ。単眼はなく、複眼のみ。メスの方が大きく、このことから日本では妻の方が夫より身長が高い夫婦のことを指して「ノミの夫婦」と表現する。なお、雌の方が雄より大きい昆虫は、ノミ以外にも多く存在する。

口器は細長い口吻を有し、吸血に適した針のような形をしている。体毛の中では移動の妨げになる翅が退化したため、飛行能力はない。それに代わって、発達した後脚とそれに裏打ちされた非常に高い脚力を持ち、体長の60倍の高さ、100倍の距離の跳躍をすることが出来る。だが、寄生対象へ飛び付くことのみを前提とした跳躍を行い、少しでもしがみつきやすいよう、各脚をバラバラに向けての前転跳びとなるため、着地は非常に不安定である（なお、ノミは外骨格かつ非常に体重が少ないため着地の衝撃は少なく、たとえ頭から落ちてほとんど損傷を受けない）。これはまた、しばしば、人間換算では数百メートル跳べるという表現があるが、体重を無視していることに留意する必要がある。その脚力のため体重の数百倍の重量物を引っ張ることができ、下記の「蚤のサーカス」はそれを利用したものである。

習性

双翅目の蚊や虻などと同様、二酸化炭素を感知して寄主を探す。寄主が死ぬと、新たな寄主を探して移動する。通常、飢餓耐性を有するため、寄主から脱落しても生きていられるが、新たな寄主に寄生できないと、数日で死んでしまう。ノミ類は運動能力が高く、容易く宿主を離れる。また、シラミ類と異なり、寄主を厳格に選ばない。ペストを媒介するのはネズミのノミだが、人間の血も吸うために病気の媒介が行われる。しかし、全く宿主を選ばないわけではなく、例えば、ネズミノミは人の血を吸うこともあるが、ネズミの血を吸った場合にだけ産卵することが知られている。

生活史

ノミは、完全変態の昆虫である。

卵

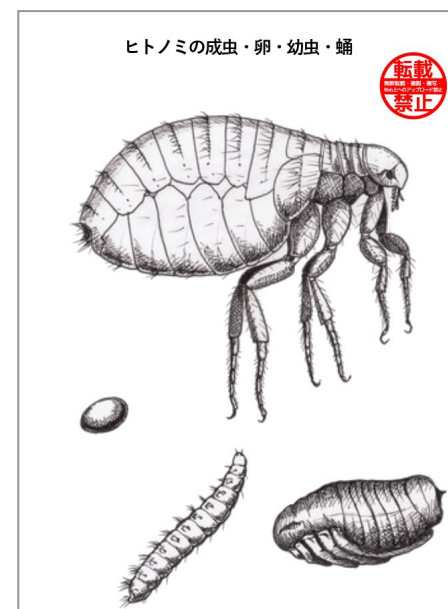
楕円形の粘着性のない卵で、動物の巣や地上に落下。湿度が低いと孵化できずに死んでしまう。

幼虫

細長い蛆状。成虫の糞や動物の体表から脱落した有機物を食べて育つ。幼虫期間は1～2週間程度で、3齢を経て蛹になる。

蛹

3齢幼虫は糸を吐いて繭を作り、その中で蛹になる。ヒトや動物が近くに来るのを待ち構え、気配を



察知するとすばやく羽化し成虫となり、飛び移って吸血を始める。

成虫

成虫は寄主に寄生してから、8時間以内に吸血をした後、48時間以内に交尾して産卵を始める。

交尾した雌成虫は1日平均20～50個の卵を産卵する。成虫期間は2～4週間程度である。

病気の媒介としてのノミ

しばしば、ノミは系統の離れた寄主に容易に移行することが多いため、宿主範囲は広範である。通常、1種の寄主に数種のノミが寄生するため、ペストをはじめとする人畜共通の伝染病の媒介者としても悪名高い。

ノミとシラミの相違点

両者ともに、寄生性を発達させた結果、二次的に翅が退化したもので、その祖先には翅があったと考えられている。しかし、ノミ類は蛹を経る完全変態の長翅目（シリアゲムシ目）の一部が寄生性を発達させた系統であると考えられているのに対し、シラミは蛹を経ない不完全変態の昆虫である咀嚼目に属し、系統的には大きく異なる。